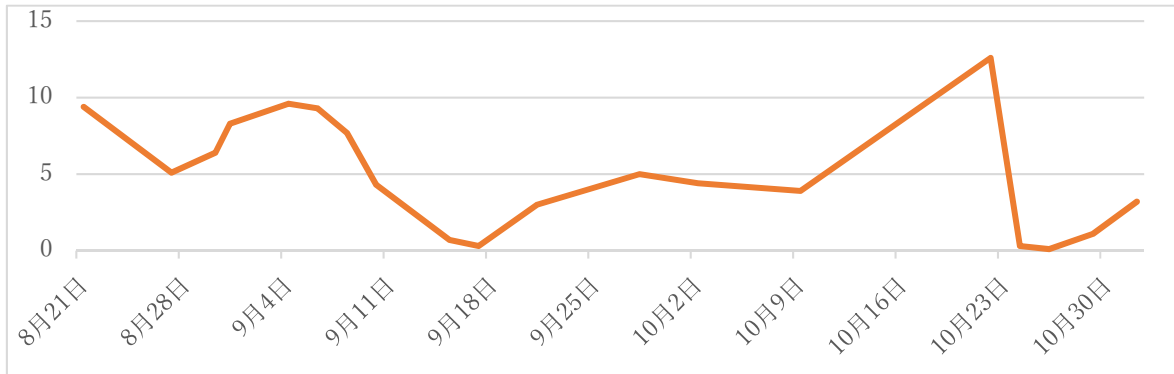


「文化の日」の静かな祝日に、夫は第2回目の抗がん剤治療が終わり、副作用を乗り越えて、76日ぶりに一時退院することが出来ました。3日から7日まで4日間、自宅でのんびり、自由に、リフレッシュします。この日をどんなに待っていたことでしょう。

主治医が「完治をめざして厳しい治療になります」と言われた通り、抗がん剤はかなりの量と強さのものでした。退院に際してこの2カ月半の「検査時系列情報」をいただきました。

白血球数の基準値は35~91ですが、最初の抗がん剤治療を受けて10日を経て、急激に減少し、感染症を発症。徐々に治癒し、2回目の抗がん剤を受けて10日ほどで減少し、再び感染症を発症しました。免疫力が落ちてしまうのですね。



LDH（乳酸脱水素酵素）は細胞が破壊されている時に高い値になりますが、基準値は120~242です。1回目の抗がん剤を投与された時はかなり高い値でしたが、時間が経つにつれて減し、細胞の破壊がなくなっている、つまりがん細胞は撲滅されていることになります。



夫は時系列表の数字を眺めながら、人間の身体の正直な反応に改めて驚いています。苦しい日々が数字の上にも残されているのです。高齢者ですから、体力がなく、副作用の激しさに



非常に苦しみました。次の治療になかなか入れず、放射線治療も取り入れ、がんの進行を抑えました。主治医はがんそのものが抑制されているし、回復力があるので、本当に幸いだっただ、今後の治療も真剣に続けるとおっしゃってくださいました。治療が効果をあげていることは明白です。感謝の思いで一杯です。

待ち望んだ一時退院ですが、階段を昇るのも苦しく、帰宅早々ベッドで休みました。ごく少量のお昼のうどんを食べ、お茶を一杯、「うちは良いなあ」と喜びましたが、胃のあたりが痛いと言え、食欲がありません。体の芯に力が感じられないと言います。

失った免疫力、筋力を回復するためには、時間がかかるでしょう。忍耐が必要でしょう。私も回復の日を待ち望み、それを楽しみに看病しています。